



未来を夢見て Season 2

2022/2/23 No.128

春はそこまで ～大和町文化講演会 大和町教育論文表彰式（皆さん自主的に書いたものですね？）～

2月27日（日）、天気もよかったので、久しぶりに天満宮にでかけてみました。2月上旬に見たときよりも鮮やかに梅の花は咲いていて、それを確かめるだけでも温かい気持ちになりました。温かくなるはずですね。今週はもう3月に入ります。

26日（土）、大和町の社会教育委員として梨田昌孝氏の文化講演会に参加しました。本当にうらやましいほど素敵な方ですね（写真）。話の内容は幼少期のこと、高校時代、2年前のコロナ感染（瀕死の状態であったそうです）、新庄監督誕生裏話、日本ハム球団、大谷翔平選手獲得秘話と野球通にはたまらない話題の連続でしたが、なぜか楽天イーグルスの話題は少なめでした（そんな中、紹介されたのがオコエ選手でした）。社会教育委員として参加（義務）ではあったのですが、梨田さんのお話であれば、お金を払っても聞きたかったので、野球ファンの私にとっても至福の90分となりました。

ここからが本題です。

何でもそうだと思うのですが、「やりなさい」と言われたことはあまり身に付かないこと、教育のプロである皆さんなら共感していただけたと思います。それと同じ事が今年度の大和町の教育論文で、昨年度より多くの先生方が書いていただいたのですが、本当に自分の意志でお書きになったのか、ここがやや不安でした。と言うのは、今年は委員会からの指示もあり、多くの先生方への執筆を永沼教頭先生に呼びかけていただきました。数的には問題ないのですが、なぜか共同研究にかかわる内容が多く、（義務で書いたのかなあ）と、思ってしまったからです。もし、義務なら本末転倒で、それでは忙しい思いだけさせて、先生方の力にはなっていないのになあ・・・、というところが本音です。論文を書くことが目的ではなく、それはあくまで手段です。目的は教師としての資質能力を高めることです。失礼なことを書きましたが大丈夫ですね？

そういう意味では、大和町勤務の長い菅原浩一先生は論文で育った象徴の一人です。毎年ご自分の意志で論文を書き続けています。再任用である今年も書きあげた姿勢には本当に敬服します。一方、安達先生。金曜日の校内研修で講師を勤めていただいたように、だれもがその指導力には一目置いています。その指導力の背景には、先生が毎日・・・毎日です！書かれている「つばみ2021J」があります。また、豊嶋先生、先生も初任研通信「Freshers」を定期的に発行されています。

皆さんご承知のように私たちは（教育基本法9条）（研修）で、法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない、とあるように研修は私たちの努力事項です。今回、上野教育長先生に代わって表彰をさせていただきましたが、論文、という形ではなくとも自分の実践や考えをまとめられている安達先生や豊嶋先生も十分「表彰」に値する功績を残しているのです（※お二人のことですので表彰は固辞されると思いますが・・・）。論文を書いて校長先生や教育長先生に認められること、たくさんの論文を出して学校として認められることが目的ではありません。あくまで、先生方の資質向上、ひいては子どもたちのためになることが一番の目的です。素直に皆さんありがとうございました、と言えбайいのにね。本当に小野小学校の校長はめんどくさいですね。



（文責：手代木）